

寒すぎず暑すぎない図書館では、昼休みも生徒たちが思い思いの場所でゆっくりとした時間を過ごしています。1月16日付の毎日新聞を見ていた生徒が「苦境の『商業高校』未来は」という、商業科の人気低迷について書かれた記事を見て考え込んでいました。3年生のマーケティングの授業でも「Y校の入学希望者を増加させるためのマーケティング」について取り組んでいる生徒がいました。日本中の商業科の、そしてY校の未来を明るくできるようなアイデアが皆さんの中から出てくることを期待します。

『商業高校から一橋大学に入って公認会計士試験に合格した話』藤本拓也(376フ)には、商業高校の魅力なカリキュラムや生活が、その後の人生にどのような影響を与えたかが書かれています。もちろん進路が大学進学ではない人にも、自分の「いま」を確認することができ、笑顔になれる本だと思うのでぜひ手に取ってみてください。 司書

📖 作ってみよう 📖

まもなく入試期間の長いお休みとなります。この機会になにか手作りを楽しんでみませんか。新しい世界が開けるかもしれない本があります。

○左巻健男・内村浩『おもしろ実験・ものづくり事典』(407オ)

科学的な視点からのものづくりの本です。乗れるホバークラフトやえんぴつ蓄電池などが作れます。

○がなはようこ『ピポンのフェルトでつくる部活応援チャーム』(594ガ)

Y校にあるほとんどの部活の可愛いチャームの作りかたがあります。

○えかたけい『ブックカバーを作る』(594エ)

アイロンと両面テープで、お気に入りの布が縫わずにブックカバーに変身です。



○吉永麻衣子『はじめてでも失敗しない おうちパン教室』(596ヨ)

フライパンやオーブントースターでも焼けるパンのレシピが満載です。

○高山かつえ『作り置きスープの素』(596タ)

お湯を注ぐだけですぐに食べられる作り置きスープの素は、どれも簡単で美味しそうです。

○タサン志麻『伝説の家政婦 沸騰ワード10レシピ』(596タ)

テレビなどでおなじみの家政婦しまさんらしい、ひとひねりしたレシピがいっぱいです。

○成石茉莉『はじめての陶芸』(751ナ)

やきものが出来るまでの工程が載っています。土をこねるだけでも楽しそうです。

○Petite Fleur『オープン樹脂粘土でつくるミニチュアお菓子とパン』(751プ)

本物そっくりの可愛すぎるお菓子やパンは、見ているだけでも幸せ気分になります。

○勝村岳『レザークラフト実践技法40』(755カ)

美術の授業ですっかりやみつきになった人もいるかも？長い休みにお財布などの大物に挑戦してみても。

○山田泰幸『はじめての消しゴムはんこ』(736ヤ)

いちばん手軽にできそう。消しゴムを使って自分だけのオリジナルマークを作ったら楽しそうです。

📖 2023年 本屋大賞 ノミネート作品 📖

今年の本屋大賞のノミネート作品を紹介します。どれも本屋さんが推すだけあって、読み応えのある本ばかりです。貸し出し中の場合は予約ができます。たくさん読んで4月12日に発表される大賞を当ててみてください。本の内容は、ブックレビューアプリの「ブクログ」から引用して紹介します。

○小川哲『君のクイズ』(913.6 オ)

生放送のTV番組『Q-1 グランプリ』決勝戦に出場したクイズプレイヤーの三島玲央は、対戦相手・本庄絆が、まだ一文字も問題が読まれぬうちに回答し正解し、優勝を果たすという不可解な事態をいぶかしむ。いったい彼はなぜ、正答できたのか？真相を解明しようと彼について調べ、決勝戦を1問ずつ振り返る三島はやがて、自らの記憶も掘り起こしていくことになり――。

○町田そのこ『宙ごはん』(913.6 マ)

宙には、育ててくれている『ママ』と産んでくれた『お母さん』がいる。厳しいときもあるけれど愛情いっぱい接してくれるママ・風海と、イラストレーターとして活躍し、大人らしくなさが魅力的なお母さん・花野だ。二人の母がいるのは「さいこーにしあわせ」だった――。

○凧良ゆう『汝、星のごとく』(913.6 ナ)

その愛は、あまりにも切ない。正しさに縛られ、愛に呪われ、それでもわたしたちは生きていく。瀬戸内の島で育った高校生の暁海と、自由奔放な母に振り回され島に転校してきた權。互いに心に孤独と欠落を抱える二人は、惹かれ合い、すれ違い、成長してゆく――。

○結城真一郎『#真相をお話します』(913.6 ヨ)

家庭教師の派遣バイトをする大学生が、とある家族で見た“異変”とは。不妊の末ようやく子供を授かった夫婦の元に、「あなたの精子提供によって生まれた子供です」と名乗る“娘”が現れて……？子供が4人しかいない島で、iPhoneを手に入れた僕らは「ゆーちゅーばー」になろうとするが――。現代日本の〈いま〉とミステリが融合した、珠玉の5篇！

○呉勝浩『爆弾』(913.6 ゴ)

ある傷害事件で「タゴサク」という中年男が逮捕された。住所不定で、酔っ払いにしか見えないタゴサクは、取り調べの最中「十時に秋葉原で爆発がある」と予言。その直後、秋葉原の廃ビルが爆発した。動揺する警察をよそに、続けて「ここから三度、次は一時間後に爆発します」と予言して――？

○一穂ミチ『光のところにいてね』(913.6 イ)

古びた団地の片隅で出会った“彼女”。彼女と私は、着るものから食べるもの、住む世界も何もかもが違う。でも何故か私は、彼女が笑うと嬉しく、彼女が泣けば悲しかった。彼女に惹かれてゆく私は、この一瞬の幸せが永遠になることを祈った。彼女でないと、なぜ私は幸せでないのだろう。

○安壇美緒『ラブカは静かに弓を持つ』(913.6 ア)

幼い頃、チェロ教室の帰りにある事件に遭遇した橘は、それ以来、深海の悪夢に苛まれてきた。ある日、上司の塩坪から音楽教室への潜入調査を命じられた橘。その目的は、「演奏権」侵害の証拠を掴むというもの。身分を偽り、チェロ講師・浅葉のもとに通い始める橘だったが、次第に音楽を奏でる喜びを覚えてゆく。そんな中、法廷に立つ時間が迫り……。

●こちらの3冊は、まもなくY校図書館に届く予定……

○青山美智子『月の立つ林で』

『木曜日にはココアを』『お探し物は図書室まで』『赤と青とエスキース』の青山美智子さんが放つ、心震える

傑作小説。似ているようで似ていない、新しい一日を懸命に生きるあなたへ。最後に仕掛けられた驚きの事実と、読後に気づく“見えない”繋がりに胸打たれる——。

○夕木春央『方舟』

大学時代の友達と従兄と山奥の地下建築を訪れた柊一は、偶然出会った三人家族とともに地下建築で夜を越す。だが翌朝、地震の発生で扉がふさがれ、さらに流水が。その矢先で起きた殺人。誰かを犠牲にすれば脱出できる。タイムリミットまで1週間、生贄にすべき殺人犯は見つかるのか？

○寺地はるな『川のほとりに立つ者は』

カフェの若き店長・原田清瀬は、ある日、恋人の松木が怪我をして意識が戻らないと病院から連絡を受ける。松木の部屋を訪れた清瀬は、彼が隠していたノートを見つけたことで、恋人が自分に隠していた秘密を少しずつ知ることに——。「当たり前」に埋もれた声を丁寧に紡ぎ、他者と交わる痛みとその先の希望を描いた物語。

📖 **本屋大賞 ノンフィクション本大賞** 📖

ノンフィクション本を対象にした「Yahoo!ニュース 本屋大賞・ノンフィクション本大賞」は、川内有緒『目の見えない白鳥さんとアートを見にいく』(706カ)でした。全盲の白鳥さんは、年に数十回も美術館に通う51歳。ノンフィクション作家の著者が美術館で白鳥さんに絵の説明をしているうちに、今まで気づかなかったアートの持つ意味について見えてきたことなどが綴られている本です。スツと心に入ってくる文章は読みやすく、自身の思い込みが改められ、いろいろな気づきをもたらしてくれます。



📖 **今月のおすすめ本** 📖

○一穂ミチ『光のところにいてね』(913.6イ)

今年の本屋大賞にノミネートされ、直木賞候補にも上がった作品を読みました。生まれ育った環境がまったく違う二人の少女が小学校2年生で出会い、高校生のときに再会し、そして30代になってまた偶然出会うことになるまでが描かれています。登場人物のそれぞれの人生が、細やかな感情まで丁寧な描写で綴られています。『流浪の月』や『52ヘルツのクジラたち』に好感をもった方におすすめします。

~図書委員会からのお知らせ~

① **合格祈願**

受験生や検定を受ける皆様に図書委員特製のY校オリジナルしおいをプレゼント！
教科書や問題集に挟んでみたりしてご活用ください。



② **ハッピーのおすそわけ**

あなたが借りる本に「あたり」のふせんと素敵なしおりが入っていたらハッピー！

Y校アーカイブ vol. 15 「美澤先生の『SELF-HELP』」

古い学校誌などを見ていると、「美澤先生は『セルフ・ヘルプ』を原書で講和されていた」といった記述が何度も出てきます。その、Y校初代校長の美澤進先生が実際に使用していた『SELF-HELP』という本が図書館に残されています。どなたかが後にテープなどで補修した跡がありますが、美澤先生が書かれたのではと思われる書き込みがところどころにあり、書体や紙の手触りなどに歴史の息吹を感じます。奥付には明治十八年八月十九日出版御届、同年同月廿九日(29日)製本改御届、同年九月出版 丸善商社 東京日本橋区(区)通三丁目十四番地 とあります。

こちらをそのまま貸し出すことはできませんが、洋書コーナーに Samuel Smiles『SELF-HELP』(159 S 洋書)がありますのでご利用ください。翻訳版は、1871年出版の中村正直訳が金谷俊一郎によって現代語訳版となった『西国立志編』(159 ス新書)と、2016年出版の久保美代子訳『新・完訳 自助論』(159 ス)があります。

『西国立志編』は、美澤先生が講義されていた頃には福澤諭吉の『学問のすゝめ』と並んで「二大啓蒙書」と言われ、当時のベストセラーとなっていたようです。「天は自ら助くるものを助く」という言葉から始まり、歴史上の人物の成功談をもとに、自立して生きていくことについて説いている本です。商いについて、金銭について、仕事について、家庭について、誠実であることについて、など、いまのY校生の心にもそのまま響くような言葉がちりばめられています。



『SELF-HELP』と一緒に商業関係の本が3冊保管されています。右の2冊は『THE BRYANT AND STRATTON BUSINESS ARITHMETIC(1877,1889)』、左は『THE CRITTENDEN COMMERCIAL ARITHMETIC(1883)』、商業算術や統計学に関する本で、中を開いてみると、実践的な問題や参照表、小切手の見本などがありました。1854年にニューヨークで商業大学を設立したブライアント&ストラットンの著書である一番右の大きな本の最初のページには「三菱商業学校蔵書」と「拂下證(払い下げの証し)」という印が捺されています。その次のページには、「横濱商法学校蔵書印」が捺されています。Y校に校長として呼ばれるまで三菱商業学校にいた美澤先生が、前任校で除籍となった本を携え、新たな蔵書印を捺されている姿が浮かんできます。

